

食薬セ研第10-1644号

2000年12月 1日

ジシクロペンチルシランジオール
の細菌を用いる
復帰突然変異試験

厚生省生活衛生局 委託

財団法人食品薬品安全センター

秦野研究所

【目 次】

	頁
要 約	1
緒 言	2
材料および方法	3
結果および考察	7
文 献	9
Tables 1~3	

【要 約】

ジシクロペンチルシランジオールの変異原性の有無を、細菌を用いる復帰突然変異試験により検討し、陰性の結果を得た。

検定菌として、*Salmonella typhimurium* TA100、TA1535、TA98、TA1537 および *Escherichia coli* WP2 *uvrA* の5菌株を用い、S9 mix 無添加および添加の条件でプレインキュベーション法により用量設定試験および2回の本試験を行った。用量設定試験を50.0~5000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ の用量で行ったところ、WP2 *uvrA* のS9 mix 添加試験以外では抗菌性を示す用量が認められた。この結果に基づいて本試験では最高用量をS9 mix 無添加試験では、*Salmonella* 菌の4菌株では1250 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 、WP2 *uvrA* では2500 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ とし、S9 mix 添加試験ではTA1535とTA1537は2500 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 、それ以外の検定菌は5000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ とし、公比2で5または6用量を設定して実施した。ただし、TA100のS9 mix 添加試験では、本試験IIで抗菌性のない用量が4用量に満たなかったため、用量段階を7用量として本試験IIの再試験を行った。

その結果、用いた5種類の検定菌のいずれの用量においても、陰性対照値の2倍以上となる変異コロニー数の増加は認められなかったことから、ジシクロペンチルシランジオールは、用いた試験系において変異原性を有しないもの（陰性）と判定した。

【緒 言】

既存化学物質安全性点検に係る毒性調査事業の一環として、ジシクロペンチルシランジオールについて、細菌を用いる復帰突然変異試験をプレインキュベーション法¹⁾により実施した。

この試験は、サルモネラ菌 (*Salmonella typhimurium*) におけるヒスチジン要求性から非要求性への復帰突然変異²⁾、ならびに大腸菌 (*Escherichia coli*) におけるトリプトファン要求性から非要求性への復帰突然変異³⁾ を指標とした変異原性の検出系である。

試験は、被験物質をそのまま検定菌に作用させる S9 mix 無添加試験と、哺乳動物のもつ薬物代謝酵素によって産生される被験物質の代謝物の変異原性を試験する S9 mix 添加試験とからなっている。

この試験は、「新規化学物質等に係る試験の方法について」（昭和62年3月31日、環保業第 237号、薬発第 306号、62基局第 303号、一部改正平成9年10月31日、環保安第 287号、衛生第 127号、平成09・10・31基局第 2号）および「OECD 毒性試験ガイドライン：471」に準拠し、「化学物質 GLP基準」（昭和59年3月31日、環保業第39号、薬発第 229号、59基局第85号、改訂昭和63年11月18日、環企研第 233号、衛生第38号、63基局第 823号）に基づいて実施した。

【材料および方法】

1. 被験物質

ジシクロペンチルシランジオールは、分子式 $C_{10}H_{20}O_2Si$ 、分子量 200.35 の白色粉状固体である。構造式等は Appendix 1 に示した。用いた被験物質は、ロット番号 純度99wt%以上であり、厚生省生活衛生局から供与された。被験物質は、使用時まで室温で保管した。本ロットについては、実験期間中安定であることが確認された。

本被験物質は、ジメチルスルホキシド (DMSO、ロット番号: ACL5008、和光純薬工業株) に溶解して最高濃度の調製液を調製した後、同溶媒で順次希釈して速やかに試験に用いた。

50 mg/mL 溶液の調製時に、発熱、発泡、変色等の変化は認められなかったことから、被験物質は溶媒中で安定であることが確認された。

2. 陽性対照物質

用いた陽性対照物質および調製法は以下のとおりである。

各検定菌ごとに用いた陽性対照物質は、当研究所で十分な蓄積データが得られている物質および用量とし、それぞれ Table 中に示した。

2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル) アクリルアミド

(AF2、和光純薬工業株) ロット番号 WTQ0059、純度98%以上)

アジ化ナトリウム (SA、和光純薬工業株) ロット番号 DLL3931、純度98%以上)

9-アミノアクリジン (9AA、Sigma Chem. Co. ロット番号 106F06681、純度97%以上)

2-アミノアントラセン (2AA、和光純薬工業株) ロット番号 DLH6052、純度90%以上)

AF2、9AA および 2AA は DMSO に、SA は超純水に溶解し、所定の濃度に調製したものを $-20^{\circ}C$ で凍結保存し、解凍後速やかに試験に用いた。

3. 検定菌

試験には、*S. typhimurium* TA100、TA1535、TA98、TA1537 および *E. coli* WP2 *uvrA* を用いた。

S. typhimurium の4菌株は1997年8月7日に、*E. coli* WP2 *uvrA* 株は1997年

4月9日に日本バイオアッセイ研究センターの から分与された。

検定菌は-80℃で凍結保存したものを用いた。各菌株の凍結保存菌の調製時に、アミノ酸要求性、UV感受性、膜変異 (*rfa*) およびアンピシリン耐性因子 pKM 101 (プラスミド) の有無について調べ、特性が維持されていることを確認した。

試験に際して、ニュートリエントブロスNo.2 (Oxoid Ltd.) を入れたL字型試験管に解凍した菌液を一定量加え、37℃で10時間往復振とう培養したものを検定菌液とした。分光光度計により 660 nm の吸光度を測定し、検定菌液の増殖を確認した。

試験に用いた検定菌液の、段階希釈法により求めた生菌数を Appendix 2 に示した。

4. 試験材料

1) 合成培地

培地は、極東製薬工業(株)製の最少グルコース寒天培地 (ロット番号: HY3902、1998年9月17日製造および HY4204、1998年12月18日製造) を用いた。なお、培地 1 L あたりの組成は下記のとおりである。

硫酸マグネシウム・7水和物	0.2 g
クエン酸・1水和物	2 g
リン酸水素二カリウム	10 g
リン酸一アンモニウム	1.92 g
水酸化ナトリウム	0.66 g
グルコース	20 g
大洋寒天 (清水食品)	15 g

径 90 mm のシャーレ 1 枚あたり 30 mL を流して固めたものである。

2) トップアガー

下記の水溶液 (A) および (B) または (C) を容量比 10:1 の割合で混合した。

(A) バクトアガー (Difco Lab.)	0.6 %
塩化ナトリウム	0.5 %
(B) <i>Salmonella typhimurium</i> 用	
L-ヒスチジン	0.5 mM

D-ビオチン	0.5 mM
(C) <i>Escherichia coli</i> 用	
L-トリプトファン	0.5 mM

3) S9 mix

S9 mix 1 mL あたりの組成は下記のとおりである。

S9*	0.1 mL
塩化マグネシウム	8 μ mol
塩化カリウム	33 μ mol
グルコース-6-リン酸	5 μ mol
NADH	4 μ mol
NADPH	4 μ mol
ナトリウム-リン酸緩衝液 (pH 7.4)	100 μ mol

* : 7週齢の Sprague-Dawley 系雄ラットをフェノバルビタール(PB)および5,6-ベンゾフラボン(BF)の併用投与で酵素誘導して作製した S9 (キッコーマン(株)、ロット番号: RAA-396、1999年1月22日製造)を購入し、-80°Cで凍結保存し、用時に解凍して用いた。

5. 試験操作

プレインキュベーション法により、S9 mix 無添加試験および S9 mix 添加試験を行った。

小試験管中に、被験物質調製液 0.1 mL、リン酸緩衝液 0.5 mL (S9 mix 添加試験においては S9 mix 0.5 mL)、検定菌液 0.1 mL を混合し、37°Cで20分間プレインキュベーションしたのち、トップアガー 2 mL を加えて混和し、合成培地平板上に流して固めた。また、対照群として被験物質調製液の代わりに使用溶媒(陰性対照)または陽性対照物質溶液を用いた。各検定菌ごとの陽性対照物質の名称および用量は各 Table 中に示した。同時に実施した試験については、陰性および陽性対照群を共通とした。

培養は37°Cで48時間行い、発生した変異コロニー数をコロニーアナライザーまたは目視によって算定した。被験物質に由来する沈殿の有無は、肉眼により観察した。また、抗菌

性の有無については、肉眼的あるいは実体顕微鏡下で、寒天表面の菌膜の状態から判断した。用いた平板は用量設定試験においては、陰性および陽性対照群では3枚ずつ、各用量については1枚ずつとした。また、本試験においては、両対照群および各用量につき、3枚ずつを用い、それぞれその平均値と標準偏差を求めた。

最高用量の被験物質調製液 0.1 mL および S9 mix 0.5 mL を、それぞれ最少グルコース寒天培地上に滴下して、培養終了時に雑菌の混入の有無を調べた。

用量設定試験は1回、本試験は同一用量について2回実施し、結果の再現性の確認を行った。また、TA100 の S9 mix 添加試験については、本試験Ⅱで抗菌性の認められない用量が4用量に満たなかったため再試験を行った。

6. 判定

用いた5種の検定菌のうち、1種以上の検定菌の S9 mix 無添加試験あるいは S9 mix 添加試験において、被験物質を含有する平板上における変異コロニー数の平均値が、陰性対照値の2倍以上に増加し、その増加に再現性および用量依存性が認められた場合に、当該被験物質は本試験系において変異原性を有する（陽性）と判定することとした。

【結果および考察】

1. 用量設定試験

「新規化学物質等に係る試験の方法について」および「OECD 毒性試験ガイドライン：471」の記載に準拠し、50.0～5000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ の範囲で公比を約3として、試験を実施した (Table 1)。その結果、S9 mix 無添加試験においては、すべての検定菌で1500 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 以上の用量で抗菌性が認められた。S9 mix 添加試験においては、TA1535 および TA1537 では1500 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 以上の用量で、TA100 および TA98 では5000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ で抗菌性が認められた。また、被験物質に由来する沈殿は、S9 mix 無添加試験および添加試験のいずれにおいても最高用量の5000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ で認められた。

以上の結果から、本試験における最高用量は、S9 mix 無添加試験では、*Salmonella* 菌の4菌株では1250 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 、WP2 *uvrA* では2500 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ とし、S9 mix 添加試験ではTA1535 と TA1537 は2500 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 、それ以外の検定菌は5000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ とした。

2. 本試験

上記の最高用量に基づいて、公比2として5または6用量を設定して2回の本試験 (本試験Iおよび本試験II) を実施した (Table 2、3-1)。

ただし、TA100 のS9 mix 添加試験では、本試験IIで抗菌性のない用量が4用量に満たなかったため、用量段階を7用量として本試験IIの再試験を行った (Table 3-2)。

その結果、すべての検定菌において、2回の試験とも陰性対照値の2倍以上となる変異コロニー数の増加は認められなかった。

すべての試験において、用いた最高用量の調製液およびS9 mix への雑菌の混入は認められなかった。また、陽性対照試験では、いずれの検定菌においても陽性対照物質の変異原性が検出され、陰性対照値とともに計測された変異コロニー数は背景データ (Appendix 3) の変動範囲内 (平均値 $\pm 3 \times$ 標準偏差) であったことから、本試験系の有効性が確認された。

ジシクロペンチルシランジオールは、当研究所で本試験と並行して実施した、チャイニーズ・ハムスター培養細胞を用いる染色体異常試験では陰性であった⁴⁾。また、関連

物質であるシランについては、復帰突然変異試験で陽性の結果が⁵⁾、メチルトリクロロシランについては、染色体異常試験で陰性の結果が、ジメチルジクロロシランとトリメチルクロロシランについては、染色体異常試験で陽性の結果が得られている⁶⁾。

以上の結果に基づき、ジシクロペンチルシランジオールは、用いた試験系において変異原性を有しないもの（陰性）と判定した。

【文 献】

- 1) Matsushima, T., Sugimura, T., Nagao, M., Yahagi, T., Shirai, A., Sawamura, M.: Factors modulating mutagenicity in microbial tests. in "Short-term Test Systems for Detecting Carcinogens" Norpoth, K.H., Garner, R.C. eds, Springer, Berlin (1980) pp. 273-285
- 2) Maron, D.M., Ames, B.N. : Revised methods for the Salmonella mutagenicity test. Mutation Research 113 : 173-215 (1983)
- 3) Green, M.H.L. : Mutagen testing using Trp⁺ reversion in *Escherichia coli*. in "Handbook of Mutagenicity Test Procedures." Kilbey, B.J., Legator, M., Nichols, W., Ramel, C. eds, Elsevier, Amsterdam (1984) pp. 161-187
- 4) 厚生省生活衛生局企画課生活化学安全対策室監修, "化学物質毒性試験報告," Vol. 8, 化学物質点検推進連絡協議会, 東京, 2000 (投稿準備中)
- 5) Araki, A., et al.: Improved method for mutagenicity testing of gaseous compounds by using a gas sampling bag. Mutation Research 307 : 335-344 (1994)
- 6) Isquith, A. et al.: Genotoxicity studies on selected organosilicon compounds: *In vitro* assays. Food Chem. Toxicol. 26: 255-261 (1998)

Table 1. Cytotoxicity of dicyclopentylsilanediol on bacteria

With (+) or without (-) S9 mix	Test substance dose (µg /plate)	Number of revertants (number of colonies / plate, mean ± S.D.)														
		Base - pair substitution type									Frameshift type					
		TA100			TA1535			WP2 <i>uvrA</i>			TA98			TA1537		
S9 mix (-)	0	128	146	106	15	14	14	23	21	21	21	27	21	6	5	11
		(127 ± 20.0)			(14 ± 0.6)			(22 ± 1.2)			(23 ± 3.5)			(7 ± 3.2)		
	50.0	111			8			27			25			9		
	150	101			4			24			16			10		
	500	121			2			19			16			10		
	1500	0 *			0 *			14 *			0 *			0 *		
	5000 †	0 *			0 *			0 *			0 *			0 *		
S9 mix (+)	0	146	129	106	9	13	12	30	32	30	20	31	26	12	21	12
		(127 ± 20.1)			(11 ± 2.1)			(31 ± 1.2)			(26 ± 5.5)			(15 ± 5.2)		
	50.0	150			7			27			32			8		
	150	123			6			25			30			8		
	500	131			5			15			24			8		
	1500	86			4 *			17			33			1 *		
	5000 †	0 *			0 *			10			0 *			0 *		
Positive control S9 mix (-)	Chemical	AF2			SA			AF2			AF2			9AA		
	Dose (µg /plate)	0.01			0.5			0.01			0.1			80		
Positive control S9 mix (+)	Chemical	2AA			2AA			2AA			2AA			2AA		
	Dose (µg /plate)	1			2			10			0.5			2		
Positive control S9 mix (-)	Number of colonies / plate	620	651	677	661	773	708	212	226	210	650	617	653	511	613	709
		(649 ± 28.5)			(714 ± 56.2)			(216 ± 8.7)			(640 ± 20.0)			(611 ± 99.0)		
Positive control S9 mix (+)	Number of colonies / plate	1027	964	919	359	334	349	1099	1005	956	368	464	488	256	252	202
		(970 ± 54.2)			(347 ± 12.6)			(1020 ± 72.7)			(440 ± 63.5)			(237 ± 30.1)		

The purity of the test substance was above 99wt%.

AF2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide , SA: Sodium azide, 9AA: 9-Aminoacridine, 2AA: 2-Aminoanthracene

*: Inhibition was observed against growth of the bacteria. †: Precipitate was observed on the surface of agar plates.

Table 2. Mutagenicity of dicyclopentylsilanediol on bacteria (I)

With (+) or without (-) S9 mix	Test substance dose (µg /plate)	Number of revertants (number of colonies / plate, mean ± S.D.)														
		Base - pair substitution type									Frameshift type					
		TA100			TA1535			WP2 <i>uvrA</i>			TA98			TA1537		
S9 mix (-)	0	149	148	138	9	14	7	24	27	32	21	14	24	7	6	6
		(145 ± 6.1)			(10 ± 3.6)			(28 ± 4.0)			(20 ± 5.1)			(6 ± 0.6)		
	39.1	125	138	119	13	17	13	ND			15	16	25	2	7	4
		(127 ± 9.7)			(14 ± 2.3)			(±)			(19 ± 5.5)			(4 ± 2.5)		
	78.1	153	144	149	14	13	10	33	18	25	14	18	31	9	10	11
		(149 ± 4.5)			(12 ± 2.1)			(25 ± 7.5)			(21 ± 8.9)			(10 ± 1.0)		
	156	151	142	121	10	11	8	25	31	20	21	16	21	4	5	4
		(138 ± 15.4)			(10 ± 1.5)			(25 ± 5.5)			(19 ± 2.9)			(4 ± 0.6)		
	313	130	146	158	11	19	15	35	26	21	17	27	22	11	5	4
	(145 ± 14.0)			(15 ± 4.0)			(27 ± 7.1)			(22 ± 5.0)			(7 ± 3.8)			
625	134	123	99	11 *	4 *	9 *	26	27	31	20	16	14	2 *	3 *	4 *	
	(119 ± 17.9)			(8 ± 3.6)			(28 ± 2.6)			(17 ± 3.1)			(3 ± 1.0)			
1250	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	
	(0 ± 0.0)			(0 ± 0.0)			(0 ± 0.0)			(0 ± 0.0)			(0 ± 0.0)			
2500	ND			ND			0 *	0 *	0 *	ND			ND			
	(0 ± 0.0)			(0 ± 0.0)			(0 ± 0.0)			(0 ± 0.0)			(0 ± 0.0)			
S9 mix (+)	0	110	121	113	12	14	7	34	27	39	20	27	25	11	15	13
		(115 ± 5.7)			(11 ± 3.6)			(33 ± 6.0)			(24 ± 3.6)			(13 ± 2.0)		
	78.1	ND			12	12	13	ND			ND			21	20	17
		(12 ± 0.6)			(12 ± 0.6)			(12 ± 0.6)			(12 ± 0.6)			(19 ± 2.1)		
	156	151	138	149	10	13	14	ND			26	30	35	23	24	20
		(146 ± 7.0)			(12 ± 2.1)			(12 ± 2.1)			(30 ± 4.5)			(22 ± 2.1)		
	313	145	142	136	13	14	5	36	41	29	26	34	22	22	15	9
		(141 ± 4.6)			(11 ± 4.9)			(35 ± 6.0)			(27 ± 6.1)			(15 ± 6.5)		
625	158	139	147	8	11	10	24	33	39	28	26	26	12	16	9	
	(148 ± 9.5)			(10 ± 1.5)			(32 ± 7.5)			(27 ± 1.2)			(12 ± 3.5)			
1250	134	115	100	9	13	5 *	15	15	30	32	23	24	4 *	5 *	5 *	
	(116 ± 17.0)			(9 ± 4.0)			(20 ± 8.7)			(26 ± 4.9)			(5 ± 0.6)			
2500 †	35 *	51 *	39 *	3 *	2 *	6 *	17	23	15	10 *	0 *	9 *	0 *	0 *	0 *	
	(42 ± 8.3)			(4 ± 2.1)			(18 ± 4.2)			(6 ± 5.5)			(0 ± 0.0)			
5000 †	0 *	0 *	0 *	ND			5 *	7 *	1 *	0 *	0 *	0 *	ND			
	(0 ± 0.0)			(0 ± 0.0)			(4 ± 3.1)			(0 ± 0.0)			(0 ± 0.0)			
Positive control S9 mix (-)	Chemical	AF2			SA			AF2			AF2			9AA		
	Dose (µg /plate)	0.01			0.5			0.01			0.1			80		
Positive control S9 mix (+)	Chemical	2AA			2AA			2AA			2AA			2AA		
	Dose (µg /plate)	1			2			10			0.5			2		
Positive control S9 mix (+)	Number of colonies / plate	814	843	823	470	409	399	1069	1065	1163	435	426	346	341	281	262
		(827 ± 14.8)			(426 ± 38.4)			(1099 ± 55.5)			(402 ± 49.0)			(295 ± 41.2)		

The purity of the test substance was above 99wt%.

AF2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide, SA: Sodium azide, 9AA: 9-Aminoacridine, 2AA: 2-Aminoanthracene

*: Inhibition was observed against growth of the bacteria. †: Precipitate was observed on the surface of agar plates.

ND : Not done

Table 3-1. Mutagenicity of dicyclopentylsilanediol on bacteria (II)

With (+) or without (-) S9 mix	Test substance dose ($\mu\text{g}/\text{plate}$)	Number of revertants (number of colonies / plate, mean \pm S.D.)														
		Base - pair substitution type									Frameshift type					
		TA100			TA1535			WP2 <i>uvrA</i>			TA98			TA1537		
S9 mix (-)	0	122	105	105	9	10	8	33	39	34	25	25	21	7	8	11
		(111 \pm 9.8)			(9 \pm 1.0)			(35 \pm 3.2)			(24 \pm 2.3)			(9 \pm 2.1)		
	39.1	93	117	119	17	13	15	ND			19	27	23	8	8	14
		(110 \pm 14.5)			(15 \pm 2.0)						(23 \pm 4.0)			(10 \pm 3.5)		
	78.1	134	128	134	5	11	7	33	41	33	20	22	29	10	11	10
		(132 \pm 3.5)			(8 \pm 3.1)			(36 \pm 4.6)			(24 \pm 4.7)			(10 \pm 0.6)		
	156	130	131	130	9	6	8	30	33	35	20	27	13	12	6	11
		(130 \pm 0.6)			(8 \pm 1.5)			(33 \pm 2.5)			(20 \pm 7.0)			(10 \pm 3.2)		
	313	129	158	126	6	12	8	35	22	30	27	16	21	11	9	13
	(138 \pm 17.7)			(9 \pm 3.1)			(29 \pm 6.6)			(21 \pm 5.5)			(11 \pm 2.0)			
625	117	126	124	5 *	13 *	13 *	25	35	31	26	20	20	3 *	4 *	3 *	
	(122 \pm 4.7)			(10 \pm 4.6)			(30 \pm 5.0)			(22 \pm 3.5)			(3 \pm 0.6)			
1250	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	7 *	11 *	0 *	0 *	0 *	
	(0 \pm 0.0)			(0 \pm 0.0)			(0 \pm 0.0)			(6 \pm 5.6)			(0 \pm 0.0)			
2500	ND			ND			0 *	0 *	0 *	ND			ND			
							(0 \pm 0.0)									
S9 mix (+)	0	100	108	104	12	15	14	33	44	35	36	25	37	16	16	15
		(104 \pm 4.0)			(14 \pm 1.5)			(37 \pm 5.9)			(33 \pm 6.7)			(16 \pm 0.6)		
	78.1	ND			3	14	9	ND			ND			19	16	19
					(9 \pm 5.5)									(18 \pm 1.7)		
	156	111	106	112	6	9	6	ND			27	28	37	15	9	16
		(110 \pm 3.2)			(7 \pm 1.7)						(31 \pm 5.5)			(13 \pm 3.8)		
	313	110	105	101	15	13	10	40	45	39	29	36	32	16	13	19
		(105 \pm 4.5)			(13 \pm 2.5)			(41 \pm 3.2)			(32 \pm 3.5)			(16 \pm 3.0)		
	625	103	118	141	10	16	7	45	37	42	40	42	29	13	13	20
	(121 \pm 19.1)			(11 \pm 4.6)			(41 \pm 4.0)			(37 \pm 7.0)			(15 \pm 4.0)			
1250	52 *	75	80	6	9	6 *	32	35	31	39	22	28	1 *	1 *	7 *	
	(69 \pm 14.9)			(7 \pm 1.7)			(33 \pm 2.1)			(30 \pm 8.6)			(3 \pm 3.5)			
2500 †	38 *	51 *	36 *	0 *	1 *	3 *	32	26	18	8 *	6 *	12 *	0 *	0 *	0 *	
	(42 \pm 8.1)			(1 \pm 1.5)			(25 \pm 7.0)			(9 \pm 3.1)			(0 \pm 0.0)			
5000 †	0 *	0 *	0 *	ND			20 *	16 *	12 *	0 *	0 *	0 *	ND			
	(0 \pm 0.0)						(16 \pm 4.0)			(0 \pm 0.0)						
Positive control S9 mix (-)	Chemical	AF2			SA			AF2			AF2			9AA		
	Dose ($\mu\text{g}/\text{plate}$)	0.01			0.5			0.01			0.1			80		
Positive control S9 mix (+)	Chemical	2AA			2AA			2AA			2AA			2AA		
	Dose ($\mu\text{g}/\text{plate}$)	1			2			10			0.5			2		
S9 mix (-)	Number of colonies / plate	480	437	551	742	672	681	200	199	204	546	579	561	679	436	534
		(489 \pm 57.6)			(698 \pm 38.1)			(201 \pm 2.6)			(562 \pm 16.5)			(550 \pm 122.3)		
S9 mix (+)	Number of colonies / plate	853	933	921	374	430	408	775	799	894	442	419	452	382	384	354
		(902 \pm 43.1)			(404 \pm 28.2)			(823 \pm 62.9)			(438 \pm 16.9)			(373 \pm 16.8)		

The purity of the test substance was above 99wt%.

AF2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide, SA: Sodium azide, 9AA: 9-Aminoacridine, 2AA: 2-Aminoanthracene

*: Inhibition was observed against growth of the bacteria. †: Precipitate was observed on the surface of agar plates.

ND: Not done

Table 3-2. Mutagenicity of dicyclopentylsilanediol on bacteria (II)

(retest)

With (+) or without (-) S9 mix	Test substance dose (µg /plate)	Number of revertants (number of colonies / plate, mean ± S.D.)				
		Base - pair substitution type				
		TA100				
S9 mix (+)	0	149	163	160		
		(157 ± 7.4)				
	78.1	160	138	136		
		(145 ± 13.3)				
	156	152	146	172		
		(157 ± 13.6)				
	313	142	164	173		
		(160 ± 15.9)				
	625	148	137	134		
	(140 ± 7.4)					
	1250	100	105	111		
		(105 ± 5.5)				
	2500 †	60 *	69 *	65 *		
		(65 ± 4.5)				
	5000 †	0 *	0 *	0 *		
		(0 ± 0.0)				
Positive control S9 mix (+)	Chemical	2AA				
	Dose (µg /plate)	1				
	Number of colonies / plate	1002	1024	937		
		(988 ± 45.2)				

The purity of the test substance was above 99wt%.

2AA: 2-Aminoanthracene

*: Inhibition was observed against growth of the bacteria. †: Precipitate was observed on the surface of agar plates.